

# 教えて! Q&A

今日のテーマ



アジア・オセアニア

## アジア・オセアニア株式市場について

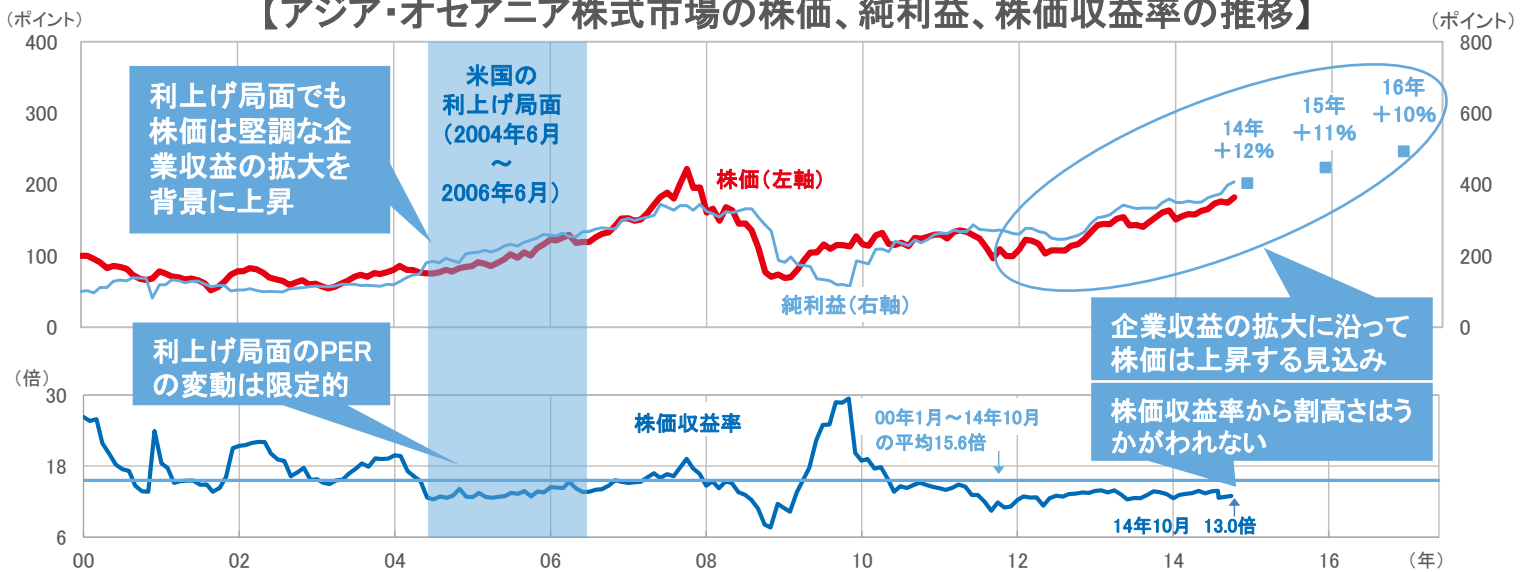
### Q アジア・オセアニア株式の上昇は続きますか？

**A** 来年半ば以降に見込まれる米国の利上げ局面でも、企業収益の拡大に沿って株価は上昇基調を維持する見込みです。

■米国の前回の利上げの影響は限定的でした。企業収益の拡大に沿い株価は上昇しました。来年半ば以降に見込まれる利上げ局面でも、企業収益の拡大に沿い株価は上昇が見込まれます。

■株価の割安・割高を判断する指標であるPER(株価収益率)は、足元で13.0倍(2014年10月末)と、過去平均(15.6倍)と比較して割高さはみられません。株価の下値の不安は限定的と見られます。

【アジア・オセアニア株式市場の株価、純利益、株価収益率の推移】



(注)データは2000年1月末～2014年10月末。株価はMSCI Asia Pacific (除く日本、円ベース、2000年1月末を100として指数化)。株価収益率(PER)は同指数ベース。純利益は同指数ベースの各月末時点過去12カ月の一株当たり純利益(2000年1月末を100として指数化)。2014年以降の年間純利益はBloomberg L.P.の予想で、数値は前年比伸び率。(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 輸出の拡大や中国景気の安定化などが企業収益を支える見込み

■米国を中心に世界経済の回復が見込まれることから、アジア・オセアニアの輸出は拡大する見込みです。中国で不動産市場支援のための金融緩和策が実施されたことなどから、中国景気は安定化に向かう見込みです。これらにより同地域の企業収益は2016年に向けて拡大が続きそうです。

■企業収益拡大のリスク要因としては、米国のインフレが進行し利上げペースが想定より速まることや、中国で実施された政策の効果が予想外に弱く景気の下振れ懸念が再燃することなどが挙げられます。これらには、注意が必要となりそうです。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。